第２号様式

ひろしまの森づくり事業（交付金事業）推進の考え方（第3期：H29～H33）

市町名： 神石高原町

１ 要旨

神石高原町の森づくり事業（交付金事業）を実施するにあたって，「ひろしまの森づくり事業に関する推進方針」を踏まえ，神石高原町の里山林を取り巻く現状と課題を念頭に第3期の推進方針を定め，これに基づいて森林の持つ公益的機能を持続的に発揮できる取り組みを行うこととする。

２ 里山林の現状と目指す姿

区分	現状	課題	目指す里山林の姿	取組む内容
景観保全林	里山林の手入れ不足や竹林化により，景観の悪化が生じている。	里山林の手入れ不足や竹林化により，景観の悪化が生じているため，景観改善のための里山整備が課題となっている。	里山林の整備不足により，景観の悪化が懸念されることから，地域一体での森林整備を行い，自然の美しさが共有できる里山林を目指す。	景観の悪化が著しい地域において，美しい森林景観を取り戻す森林整備を行う。
防災・減災林（特認含む）	里山林の手入れ不足によって，災害の危険性が高くなっている。	災害の危険性がある里山林において，防災のための森林整備が課題となっている。	災害の危険性のある里山林において，地域住民一体となった森林整備等により，防災・減災の機能を持つ里山林とする。	災害の危険性のある里山林において，地域住民一体となった森林整備を行う。
地域資源活用林（特認含む）	地域の資源である森林風景やランドマークが里山の荒廃により悪化し，活用されなくなっている。	里山の荒廃により，以前は住民のふれあいの場となっていた森林公園やランドマークなどの森林整備が課題となっている。	里山林整備によって，森林とふれあう場所を再生し，地域の価値を高める資源林を目指す。	荒廃や利用低迷が著しい場所において，地域の資源として活用される森林整備に取り組み，その価値の向上，及び適切な維持・管理が見込まれる地域から重点的に実施する。
環境緑化保全林				
鳥獣被害防止林	サルやイノシシなどの野生動物が人里近くまで活動域を広げ，鳥獣被害が拡大している。	サルやイノシシなどによる鳥獣被害が拡大しているため，野生動物との共生を目指した里山林整備が課題となっている。 対策を講じても効果が限定的となっている。	サルやイノシシなどの野生動物が人里近くまで活動域を広げつつあることから，生物多様性の保全や野生生物との棲み分けがされるなど一定の緩衝機能を持った里山林に整備し，野生動物との共生を目指します。	鳥獣被害が著しい地域において，バッファゾーンとして森林整備とその他の対策を地域一体で取り組むとともに，持続した管理が見込まれる地域から重点的に実施する。

※区分は市町が森づくり事業に取り組む方針により選択して記載すること。

３ 森林を守り育てるための取り組み

区　　分		現状と課題	目指す姿	取組む内容
森林を守り育てる体制	森林整備を行う者 （森林ボランティア団体） （住民団体等） （小規模林業経営者） ※主体別に記入 森林整備を助ける体制 （森林資源の継続的利用）	（森林ボランティア団体） 森づくり事業を活用するボランティア団体は財務基盤等が脆弱である。引き続き森づくり事業を活用して活動を継続したい思いはあるが，事業に参加できる人が集まりにくい状況にある。	森づくり事業を財源に森林整備を行う団体が各地区１団体以上程度発足され，将来は各団体の収入と会費などで運営できるスタイルを確立させる。	里山保全活用支援事業や森林・林業体験活動支援事業を活用し，ボランティア団体活動の維持と組織の活性化を図り次世代に活動を引き継いでいく。
取組への理解促進	住民への説明 参加拡大による理解促進 事業の理解	ひろしまの森づくり県民税による事業が，どのように展開され，どのような効果に資しているのか周知できていない。また地域ごとに認知度の差が大きいため，全町において周知していく必要がある。 住民が森林整備等の体験や学習する機会が少ない。 森づくりに参加する住民の人数をより増加させるとともに，「森づくりへ参加している」という意識の醸成を図る必要性がある。	住民が森づくり県民税の使途や効果，実績を理解している。 森林・林業に関する情報がタイムリーに入手できる。 多くの住民が森づくりに参加し，積極的に「森づくりへ参加している」という意識を醸成する。	町広報誌を活用し，事業の実績や効果を住民に広く発信する。 森林・林業に関する情報を広範囲にわたり町ホームページに掲載する。